

# COOP Calendar

7月号

July 2022

Vol.172



冬木勝仁会長理事の挨拶

## CONTENTS

### 第53回通常総会終了のご報告と2022年度体制のご案内

#### 役員エッセイ ..... 1

宮城県生協連副会長理事 河野 雪子（みやぎ生協副理事長）  
「初めての県連理事会の思い出」

#### 宮城県生協連の活動 ..... 2

- ・宮城県生協連第52回総会（2021年度）第5回理事会報告
- ・宮城県生協連第52回総会（2021年度）第2回監事会報告
- ・宮城県生協連第53回総会（2022年度）第1回理事会報告
- ・「第53回通常総会」開催

#### 会員生協だより ..... 4

- ・みやぎ生活協同組合
- ・東北大学生協同組合
- ・みやぎ仙南農業協同組合

#### 協同のとりくみ ..... 6

#### 平和のとりくみ ..... 7

#### 環境のとりくみ ..... 8

#### 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動 ..... 9

#### 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動 ..... 10

#### NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動 ..... 11

#### 適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動 ..... 12

#### 宮城県ユニセフ協会の活動 ..... 13

#### 公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)の活動 ..... 14

#### 新聞記事紹介 ..... 15

#### 資料 ..... 23

## 第 53 回通常総会終了のご報告と 2022 年度体制のご案内

2022 年 6 月 21 日（火）に開催しました当連合会の第 53 回通常総会は、おかげさまでもちまして総会のすべての議案が原案通り可決承認されました。今後も会員生協間の連帯を強め、組合員の信頼に応えるよう取り組んでまいります所存でございます

なお、2022 年度体制を下記のとおりとし、新しく副会長理事に河野雪子が就任しました。今後とも、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 【2022 年度体制】

| 役 名       | 氏 名   | 所属生協・役職等                        |
|-----------|-------|---------------------------------|
| 会長理事・代表理事 | 冬木 勝仁 | みやぎ生協理事長・東北大学生協理事長・東北大学大学院教授    |
| 副会長理事【新任】 | 河野 雪子 | みやぎ生協副理事長                       |
| 副会長理事     | 若柳恒太郎 | 東北大学生協専務理事                      |
| 専務理事・代表理事 | 野崎 和夫 | 宮城県生協連専務理事（員外）                  |
| 常務理事      | 加藤 房子 | 宮城県生協連常務理事（員外）                  |
| 常務理事      | 渡辺 淳子 | 宮城県生協連常務理事（員外）                  |
| 理 事       | 伊藤 恵仁 | 宮城県高齢者生協理事長                     |
| 理 事       | 尾本 満雄 | みやぎ仙南農協常務理事                     |
| 理 事       | 佐藤 洋志 | 東北学院大学生協・東北工業大学生協・尚絅学院大学生協専務理事  |
| 理 事【新任】   | 佐藤 淑子 | みやぎ生協地域代表理事                     |
| 理 事       | 佐藤 良治 | 松島医療生協専務理事                      |
| 理 事       | 高橋 千佳 | 生協あいコープみやぎ理事長                   |
| 理 事       | 藤巻 正之 | 大学生協事業連合常務理事                    |
| 理 事       | 増田 昌彦 | 宮城労働者共済生協専務理事                   |
| 理 事【新任】   | 山田いずみ | 弁護士（員外）                         |
| 監 事       | 小山 茂樹 | みやぎ県南医療生協専務理事                   |
| 監 事       | 熊沢 由美 | 東北学院大学教授（員外）                    |
| 監 事       | 田中 康治 | 宮城教育大学生協・大学生協みやぎインターカレッジコープ専務理事 |
| 顧 問       | 芳賀 唯史 | 宮城県生協連元会長理事、みやぎ生協顧問             |
| 顧 問       | 内館 昭子 | 宮城県生協連元会長理事、みやぎ生協顧問             |

今総会をもって、大越健治副会長理事（みやぎ生協）、石川宣子理事（みやぎ生協）、佐藤由紀子理事（弁護士）が退任いたしました。この間のご厚誼に感謝いたします。

## 初めての県連理事会の思い出

宮城県生協連副会長理事 河野 雪子  
(みやぎ生協副理事長)



6月の県連総会及び理事会で、副会長理事に就任しました河野雪子です。

県連の活動に始めて参加したのは、39年前1983年初頭の頃と思います。私がまだ大学2年生の時、当時の東北大生協専務理事に「代理で参加するように」と言われ、宮城県生協連の理事会に参加したことがあります。県連理事会に本当は「代理」というしくみはなく、日本生協連の共済学習会がセットで開催されたことから、たぶん参加人数が必要だったのだと思います。

1983年の県内の生協運動は、前年1982年に宮城県学校生協と宮城県民生協が合併し、新しい「みやぎ生協」が誕生したという大きなうねりの中にあり、学生から見ても希望に輝いていた時期でした。

理事会は仙台市内のホテルで開催され、春のなごり雪が降

っていたように記憶しています。当時、会長理事はみやぎ生協理事長の西條典雄さんで、事務局長はみやぎ生協の釜范勝<sup>かまやつ</sup>宏さんでした。

理事会当日は各会員生協の取り組み報告があり、私も東北大生協の報告をしました。すると突然、県連専務理事でみやぎ生協専務理事の内舘<sup>あきら</sup>晟さんが、「東北大生協の“一声”の取り組みについて、もう少し説明してほしい」と質問がありました。“一声”とは、大学生協の組合員から寄せられる“一声”を事業に生かす取り組みで、声と回答を貼りだし、組合員みんなでまた話題にする現在でも続いている生協らしい取り組みの一つです。

宮城の生協運動のリーダーで、雲の上のカリスマの内舘さんから、当日初めて会ったばかり、しかも正式な参加者でもない学生を指名しての質問に、大変驚きました。

しばらく後、内舘さんに「卒業したら、みやぎ生協に入りますか」とお誘いいただきました。「みやぎ生協の組合員の多くは女性ですが、女性の幹部が少ない」とのお話でした。

あれから39年。あの時県連理事会に参加しなかったら、今の私はなかったかもしれないと思うと、少し不思議な気持ちです。

みやぎ生協は今年、創立40年を迎えました。あの時の情熱を忘れずに、地域の皆さんのくらしが向上できるように、少しでもお役に立てればと思います。



## 宮城県生協連の活動

### 宮城県生協連第 52 回総会（2021 年度）第 5 回理事会報告

第 5 回理事会は、5 月 24 日（火）午後 1 時 30 分より、フォレスト仙台 5 階会議室において開催され、理事 13 人、監事 3 人、顧問 2 人が参加しました。（内、理事 1 人、監事 1 人が WEB 参加）議長に冬木勝仁会長理事を選任し、議事に入りました。

#### 【議決事項】

1. 第 53 回通常総会議案決定の件について、野崎和夫専務理事より提案があり、可決承認されました。

#### 【報告事項】

1. 東日本大震災復興復興関連、新型コロナウイルス感染症に関連する取り組み、及び東北地区の大学生協の経営状況について、出席した理事より報告がありました。
2. 2021 年度第 2 回監事会報告

について、小山茂樹監事より報告があり、全員異議なく了承しました。

3. アルプス処理水海洋放出に反対する署名の取組み、宮城県労働者福祉協議会の活動、灯油関連、NPO 法人消費者市民ネットとうほくの活動、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの活動について、野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
4. 第 43 回宮城県生協組合員集会の開催準備、平和・憲法 9 条関連、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税率引き上げをやめさせる活動について、加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

5. NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について、渡辺淳子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

#### 【文書報告事項】

生協連活動報告、各種委員の推薦、共催・後援依頼、広告協賛等について文書により報告があり、全員異議なく了承しました。

#### 《第 2 回監事会報告》

5 月 24 日（火）午前 11 時 30 分より、フォレスト仙台 5 階会議室において開催し、監事 2 人、理事 3 人、事務局 2 人が参加しました。

小山茂樹監事会議長により、議事がすすめられました。

野崎和夫専務理事より、2021 年度（2021.4.1～2022.3.31）決算関係書類及び理事の業務執行状況等について報告がありました。

その後、①決算関係書類及び事業報告書並びにこれらの附属明細書の監査と監査報告書作成の件、②監事候補者同意の件、③2022 年度監事報酬の件、④総会議案書調査の件について、協議、実施しました。

### 宮城県生協連第 53 回総会（2022 年度）第 1 回理事会報告

第 1 回理事会は、6 月 21 日（火）午後 12 時からフォレストホールにおいて開催し、理事 15 人、監事 3 人が参加しました。（内、理事 2 人、監事 1 人が WEB 参加）議長に冬木勝仁会長理事を選任し、議事に入りました。

#### 【議決事項】

- ①会長理事・副会長理事・専務理事・常務理事互選の件、②代表理事選定の件、③副会長理事及

び常務理事の会長理事職務代行順位決定の件、④顧問選任の件、⑤役員報酬規則の一部変更の件、⑥2022 年度役員報酬額決定の件、⑦役員退任慰労金支給決定の件、⑧2022 年度宮城県生協連会費額決定について、野崎和夫専務理事から提案があり、可決承認されました。

#### 【報告事項】

- 第 43 回宮城県生協組合員集

会の開催準備状況について、加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

#### 【文書報告事項】

消費税率引き上げをやめさせる活動、NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動、行政・議会関連報告について、文書により報告があり、全員異議なく了承しました。



## 宮城県生協連の活動

### 「第 53 回通常総会」開催

6月21日（火）午前10時30分よりフォレストホールにて、第53回通常総会を開催しました。本人出席15人、委任状出席1人、書面議決書出席27人、合計43人の代議員が出席しました。

増田昌彦理事より成立が宣言され、大学生協事業連合の柏倉欣弥さんが議長に推薦、選出されました。

はじめに、冬木勝仁会長理事から挨拶がありました。

議案は、第1号議案「2021年度事業報告承認の件」、第2号議案「2021年度決算関係書類等承認の件」、第3号議案「定款の一部変更の件」、第4号議案「役員（理事・監事）選任の件」、第5号議案「2022年度役員（理事・

監事）報酬決定の件」、第6号議案「2022年度事業計画及び予算決定の件」を、野崎和夫専務理事から一括して提案しました。

5会員生協5人の代議員から発言がありました。石垣八重美代議員（みやぎ生協）より、みやぎ生協の再エネ・省エネに対する取り組みについて、太田代一世代議員（生協あいコープみやぎ）より、ゲノム編集問題への対応と女川原発再稼働反対運動の取り組みについて、伊藤隼己代議員（東北大学生協）より、コロナ禍においての大学生の状況と大学生協の取り組みについて、菅原繁代議員（宮城労働者共済生協）より、自然災害への対応と防災減災への取り組みについて、丹野幸子代議員（宮城県高齢者

生協）より、宮城高齢協の2021年度事業報告について発言がありました。

その後、採決に入り、提案された全議案が満場一致で可決されました。みやぎ生協の佐藤淑子代議員より総会決議が提案され、満場の拍手で採択されました。（後掲）

議長から、新任役員として河野雪子さん、佐藤淑子さん、山田いづみさんの紹介がありました。退任の役員を代表して大越健治副会長理事より、ご挨拶をいただきました。

閉会挨拶を、若柳恒太郎副会長理事が行い終了しました。



発言報告者：左から、石垣八重美代議員（みやぎ生協）、太田代一世代議員（生協あいコープみやぎ）、伊藤隼己代議員（東北大学生協）、菅原繁代議員（宮城労働者共済生協）、丹野幸子代議員（宮城県高齢者生協）



新役員紹介：左から  
山田いづみさん（弁護士）  
河野雪子さん（みやぎ生協副理事長）  
佐藤淑子さん（みやぎ生協理事）



退任役員紹介：左から  
石川宣子さん（みやぎ生協理事）  
大越健治さん（みやぎ生協理事）

# 会員生協だより

## みやぎ生協

### 「第41回通常総代会」開催

6月10日(金)「みやぎ生協第41回通常総代会」を仙台国際センター大ホールで開催しました。

総代会当日は、新型コロナウイルスの感染状況もあり、書面議決書による出席が約70%を占めたものの、総代定数1,085人のうち、実出席317人、代理人

出席2人、書面での出席712人、合計1,031人の参加で、3年ぶりに実出席も再開しての総代会となりました。

第1号議案：2021年度事業報告承認の件、第2号議案：2021年度決算関係書類承認の件、第3号議案：2022年度事業計画及び予算決定の件、第4号議案：役員(理事及び監事)報酬決定の件、第5号議案：役員(理事及び監事)退任慰労金支給決定の件、第6号議案：役員(理事及び監事)選任の件は、



採決の様子

全ての議案が賛成多数で採択されました。

今後も組合員のくらしと地域の復興に生協の役割を発揮し、「協同」ある地域づくりをすすめていきます。

(機関運営部課長 中塩晴彦)



### 「第13回からあげグランプリ®」北日本スーパー総菜部門で最高金賞受賞！

みやぎ生協の店舗で販売している「4種醤油香る国産鶏もも唐揚げ」が、一般社団法人日本唐揚げ協会が主催する「第13回からあげグランプリ®」の北日本スーパー総菜部門において、最高金賞を受賞しました。

唐揚げは地元の食材を使い、美味しくて食べやすく、飽きのこない味に仕上げました。国産鶏モモ肉を使用し、醤油は特選濃口・淡口・たまり・再仕込みの「4種類の醤油」をブレンドすることで丸みのある醤油感と深みを出しました。「気仙沼産牡蠣の

オイスターソース」を隠し味に使い、味にコクと旨みを出しています。(株)佐浦様の「浦霞の甘酒」を使い、すっきりとした優しい甘さをだしています。衣には、「宮城県産ひとめぼれ」100%の米粉を配合することでサクッと

した食感を出しました。

みやぎ生協の店舗にお越しの際には、是非、総菜コーナーの鶏もも唐揚げをご賞味下さい。





# 会員生協だより

## 東北大学生協

### 学生支援とウクライナ支援募金のとりくみ

#### 学生応援メロンパン

この取り組みは 100 円朝食と同じく、東北大学の“学生支援パッケージ”の一環として行われました。田中貴金属記念財団様からのご支援をきっかけに、東北大学生協が製造・販売を行うことで実現をしています。

通常 170 円のメロンパンが 50 円になり、学生の皆さんからは



喜びの声が多く寄せられています。川内キャンパスで

は、メロンパン待ちで店内が混雑するなど、別の対策が必要になるほどの盛況ぶりでした。

#### 東北大生協ウクライナ支援募金

ウクライナでの戦闘が続く中、「よりよい生活と平和」を目指してきた我々は平和的な解決を望んでいます。同じような考えを持つ組合員と一緒に行動したいという気持ちを募金の形で実現すべく、全購買書籍店に募金箱を設置し「東北大生協ウクライナ支援募金」をはじめました。募金は、「東北大学ウクライナ

支援募金」にお届けし、ウクライナを母国とする方の支援や、今後、東北大学において

拡大されるサポートの一助となることを目指しています。

また、組合員の皆さんが「より良き生活と平和」について考えるきっかけになれば幸いです。

(専務理事 若柳恒太郎)



## みやぎ仙南農協

### 「めぐみ野」米 田んぼの学校田植え交流会 in まるもり

5月15日(日)丸森町内の圃場で、みやぎ生協メンバーと、『「めぐみ野」米 田んぼの学校田植え交流会 in まるもり』を開催しました。コロナ禍の中、3年ぶりの開催となるため、丸森産直ふるさと米部会の方々は事前に打ち合わせを行い、コロナ対

策等の準備も行いました。

当日は少し肌寒く、冷たい田んぼでの田植えとなりましたが、みやぎ生協メンバーの家族と職員、生産者総勢 80 人が集まり、子どもたちの歓声の中、楽しく田植えを行うことが出来ました。

はじめは、おそろおそろ素足



みやぎ生協メンバーの家族と生産者の様子



で田んぼの中に入り、「冷たい！足がへんな感じ〜？」などと話しながら、生産者から渡された苗を手で植えてみました。「苗は2〜3本、曲がらないように、一直線に植えてね」などと、参加者は声をかけあいながら 10a の田んぼの 1/3 を頑張りました。次は田植機の登場です。子どもたちは田植機に乗せてもらい「早い、早い！」と歓声を上げていました。今後の交流は、田んぼの生きもの調査(雨天のため中止)と稲刈りを行う予定です。

(営農企画課課長補佐 渡邊睦子)

## 協同のとりくみ

### アルプス（ALPS）処理水海洋放出に反対する署名

#### 経済産業省と意見交換会を開催

アルプス（ALPS）処理水海洋放出に関する経済産業省との意見交換会が、5月27日（金）みやぎ生協文化会館ウィズで開催されました。経済産業省より2人、署名提出団体より9人の参加がありました。

はじめに、経済産業省の大江健太郎廃炉・汚染水・処理水対策官より、3月30日に17万9千筆の署名を受け取りましたが、意見を聞き説明をする機会として、本日意見交換会をもったことの挨拶がありました。

また野中俊吉副理事長より、継続した意見交換をすることの大切さについて、開会にあたり挨拶がありました。

大江対策官より、廃炉・汚染水・処理水対策チーム事務局作成の「ALPS 処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた行動計画に基づく対策の進捗状況について」「ALPS 処理水の海洋放出について」の2種類の資料の紹介があり、経産省としての現在の取組状況、食品の安全性について説明がありました。

署名提出をした生協からは、利害関係者との合意順守責任、汚染水を増やさず海洋投棄を回避する課題、廃炉計画全体を示すとともに整合性のある処理水処分であるべきことなど、意見を出し、それに対する考え方など意見交換をしました。

海洋放出ありきの説明については意見に隔たりがありましたが、生協に寄せられている声等を経産省へ直接伝えることのできる貴重な機会となりました。

（専務理事 野崎和夫）

#### 経済産業省出席者 ※敬称略

大江健太郎（資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室 廃炉・汚染水・処理水対策官）

佐藤 徹（資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室 室長補佐）

#### 署名提出団体出席者

吉田 敏恵（岩手県生活協同組合連合会専務理事）

野崎 和夫（宮城県生活協同組合連合会専務理事）

野中 俊吉（みやぎ生協・コープふくしま副理事長・ふくしま県本部長（前））

小澤 義春（みやぎ生協・コープふくしま常務理事）

穴戸 義広（みやぎ生協・コープふくしま執行役員・ふくしま県本部長）

國久 暁（みやぎ生協・コープふくしま生活文化部長） <事務局3人>



意見交換の様子 経済産業省(左側)

アルプス(ALPS)処理水放出反対署名数

2022/6/30 現在 **213,615**筆

### 宮城県労働者福祉協議会

#### 「第59回定期総会」開催

宮城県労働者福祉協議会（構成団体：連合宮城、東北労働金庫宮城県本部、こくみん共済coop宮城推進本部、宮城県生協連、労働者福祉資産協会、労働福祉センターみやぎ等）の「第59回定期総会」が、5月30日（月）ハ

ーネル仙台2階「松島」にて開催され、代議員34人の参加がありました。

提案された全議案は、満場一致で可決されました。

2022年度の活動方針は「多様なセーフティネットで、働くこ

とやくらしの安心を支えます」を基本目標とし、政策制度要求に向けた取り組み、社会貢献活動に対する取り組み、労働者自主福祉運動への女性の参画推進などに取り組むこととしました。

（常務理事 加藤房子）



# 平和のとりくみ

「平和とよりよい生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法9条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を上げていきます。

## みやぎ生協

### ウクライナ緊急募金を宮城県ユニセフ協会に贈呈しました

みやぎ生協では、脅威にさらされているウクライナの方々へ一刻も早い人道支援が必要と考え、3月5日から5月20日まで、店舗・宅配・全事業所で「ユニセフ ウクライナ緊急募金」に取り組みました。みやぎ生協・コープふくしま合わせて、15,503,195円の募金が寄せられました。多くのみなさまからのご協力ありがとうございました。

4月20日までに宮城県内で寄せられた募金を、第1次集約分

として、5月20日（金）に宮城県ユニセフ協会へ贈呈しました。

ウクライナでは、人道支援を必要としている子どもの数がウクライナ国内で300万人、避難先の難民受け入れ国で220万人以上にのぼっています。ウクライナの子どもの3人に2人近くが、紛争の影響で避難を余儀なくされています。

「ユニセフ ウクライナ緊急募金」は、日本ユニセフ協会を通して支援を必要としている子ども



みやぎ生協の小野幸恵理事より宮城県ユニセフ協会の大越健治専務理事へ、ウクライナ緊急募金が贈呈されました

もたちと家族のために役立てられます。

（生活文化部 大友千佳子）

## 核廃絶ネット

### 「核廃絶 Peace Wave in みやぎ Vol.2」

5月22日（日）核兵器廃絶ネットワークみやぎ主催「核廃絶 Peace Wave in みやぎ Vol.2」が開催されました。

始めに「ミニ集会」を肴町公園にて行いました。あいにくの雨でしたが、27人の参加者がありました。

開会のあいさつを木村緋紗子代表が行い、5月20日に被団協が外務省へ90万筆以上の署名を提出したこと、本当は広島県出身の岸田首相に会ってほしかったという思いを話されました。続いて、呼びかけ人からご挨拶

があり、みやぎ憲法九条の会事務局長で東北大学名誉教授の板垣乙未生さんと若林クリニックの水戸部秀利先生から、平和や核兵器廃絶へのメッセージがありました。また、新日本婦人の会宮城県本部から平和の取り組みについて紹介があり、今後も署名にしっかり取り組んでいくとの決意表明がありました。

最後に、5月9日（月）に記者発表した「いかなる理由でも核兵器による威嚇や使用を許さない」声明（後掲）の発表がありました。



集会の様子



核廃絶を訴え行進しました

集会終了後、仙都会館前までパレードを行い、平和ビル前で署名行動を行いました。

（常務理事 加藤房子）

## 環境のとりくみ

生協の環境活動は生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。

### みやぎ生協

#### 14 番目の森「こ～ぶの森七ヶ宿」に植林しました

宮城県内の自然と緑を豊かにする活動として、1992 年から始まった“こ～ぶの森”づくりは、昨年 10 月に「こ～ぶの森七ヶ宿」が加わり 14 カ所に広がりました。総面積は 62ha となり、これまで 10 万本の針葉樹や広葉樹を植林してきました。

5 月 14 日（土）に開催した「植林体験会」には、メンバー（組合員）親子、協賛企業の方々、職員、森林組合など 121 人が参加し、コブシやケヤキ等の広葉

樹を植えました。

“こ～ぶの森”への植林や手入れ作業の費用は、メンバーからの募金やアルミ缶回収益、協賛企業からの募金などを積み立てた「COOP 緑の基金」を活用しています。当日は、記念植樹や緑の基金への協賛企業様からの「募金の贈呈式」も行いました。

参加者は植え方の指導を受けた後、苗木がこの地に根付くように、1 本 1 本丁寧に植付けました。



親子で植林する様子

七ヶ宿町の地場産品を使用した昼食交流後には、滑津大滝や道の駅旬の市、雪室などの観光も楽しみました。

（生活文化部 千葉悠菜）

### 生協あいコープみやぎ

#### 今年も遺伝子組み換えナタネを発見！

GM（遺伝子組み換え）ナタネは日本での栽培は認められていませんが、食用油の材料や家畜の飼料用に輸入されており、それが輸送途中にこぼれ自生していることがあります。

それを見つけ、行政や関係企業に結果を報告し対策を求める活動をしている「ナタネ調査隊」は全国に仲間がいて、あいコープみやぎは 2007 年から参加しています。

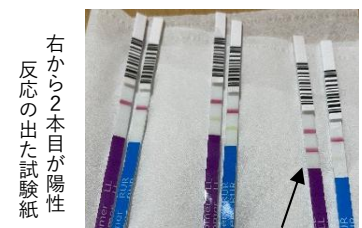
4 月 13 日（水）仙台港、4 月 20 日（水）石巻港での調査では、GM ナタネは確認されませんで

したが、その後、石巻の幹線道路沿いで怪しい検体を発見。簡易検査の結果は、「バスター」という除草剤をかけても枯れないように遺伝子を組み換えられた GM ナタネであることが確認されました。

これまで県内で GM ナタネの自生が確認されたのは石巻でのみですが、今回はこれまでの飼料会社周辺と違い、工業港の敷地外の幹線道路沿い。これらを放置すれば増殖し、遺伝子組み換えでない作物と交雑する恐れがあります。今後は、今まで以上



調査の様子  
（石巻）



に注視する範囲を広げねばと、身が引き締まる思いがしました。

組合員と共に、見えない汚染を防ぐための地道な調査を続けていきます。（理事 辻朗子）

## 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)【構成団体】宮城県生協連、NPO 法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生協、生協あいコープみやぎ、(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

### 2022 年度幹事会及び学習会「ゲノム編集技術を応用した食品」を開催

4月28日(木)フォレスト仙台5階会議室からオンライン配信で、2022年度幹事会及び学習会を開催し、44人の参加がありました。

野崎和夫座長(宮城県生協連専務理事)の開会挨拶後、「ゲノム編集技術を応用した食品」について、日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進室の中川英紀さんを講師に学習をしました。

ゲノム編集技術とは、一般に、DNAを切断する酵素を用いて、外部からの遺伝子の挿入だけでなく、既存の遺伝子の欠失や塩基配列の置換えなど、ゲノムの特定の部位を意図的に改変することが可能な技術のことです。

ゲノム編集食品の流通販売が始まっていますが、厳格な検査と規制が行われず、国は環境影響評価や食品としての安全性審査、表示も義務付けていません。ゲノム編集技術を使い開発された食品の流通が行われていることから、現状と課題について理解することを目的に学習会を行いました。

講師からは、以下の話がありました。

ゲノム編集食品を巡る動向について、2019年10月1日から

届出されたものの流通が可能になり、GABA高蓄積トマト、可食部増大マダイ(動物(魚)では世界初)、高成長トラフグの流通が始まっている。

しかし、多くの国民が「ゲノム編集」を知らない状況にある。アンケート調査で「理解している」と回答した人でも多くが遺伝子組換えとの違いが理解できていない状況にある。

国の考え方について、遺伝子組換えやゲノム編集の目的は、日本農業の課題である高齢化、担い手不足、食料自給率の低下などの課題に対し、様々な環境や高品質高付加価値の新品種を作ることが、解決に貢献できる可能性があること、突然変異と同じで従来育種と変わりがない。ただ、新しい技術への消費者等の不安があることから、国への事前相談を行い、事業者自らが安全&環境影響を確認して、国に届出表示など積極的な情報提供を求めている。

日本生協連の対応については、組合員への情報提供、学習会などのコミュニケーション機会、CO・OP商品での取り扱いや表示について、社会動向を調査しながら、会員生協や組合員の声をいただきながら継続的に検討する(現時点では積極的に取り

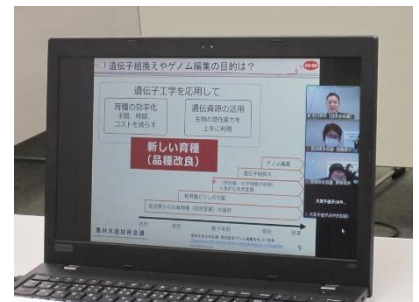
扱う等の段階にはないと考える)との説明がありました。

質疑応答を行い、多くの消費者への情報が不足していることへの不安の声などが出されました。

学習会終了後、座長を議長に議事に入り、第1号議案「2021年度活動報告」、第2号議案「2022年度活動計画」、第3号議案「座長、副座長、事務局長の任命」について、一括して加藤房子事務局長(県連常務理事)から提案があり、全議案が承認されました。

その後、構成団体からの活動報告があり、各団体の活動に関して情報共有することができました。

(事務局長 加藤房子)



オンラインでの開催の様子



## 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)は、今以上の消費税率引き上げに反対する一点で集まった、宮城県内の生活者・事業者の個人・団体で組織されたネットワークです。会員数は、団体 27、個人 64 です。(2022 年 3 月現在)

### 「2022 年度第 20 回総会 & 記念講演」開催

6 月 3 日(金)フォレスト仙台 2 階フォレストホールにおいて、消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城「2022 年度第 20 回総会 & 記念講演」が開催され、消費者団体、宮商連、生協などの関係者、事業者、一般市民などオンラインを含め 79 人が参加しました。

三戸部尚一代表世話人(宮城県商工団体連合会会長)の開会挨拶後、大越健治代表世話人(みやぎ生協専務理事)を議長に、第 20 回総会がすすめられました。野崎和夫事務局長(宮城県生協連専務理事)から、第 1 号議案:2021 年度活動報告・決算承認の件、第 2 号議:2022 年度活動方針・収支予算決定の件、第 3 号

議案:役員選任の件の提案がありました。監査報告を、会計監査人を代表し、竹田久税理士が行いました。その後、全議案が承認されました。総会アピール(後掲)の提案を大竹康子さん(仙台民商婦人部部長)が行い、採択されました。

記念講演は、講師に立命館大学経済学部教授の松尾匡さんをお迎えし、「消費税は『暮らしを直接支える仕事』への罰金?!」と題して、オンラインにてご講演いただきました。

資本主義の市場経済では、労働者が働いてつくり出す価値(商品)が富の源泉となり、それが企業の利潤や賃金などのかたちで分配されている。その利潤

や賃金にたいして、国家が税をとり、それを再分配する仕組みになっている。お金を払うことは、社会全体の労働配分のあり方を決めるために「投票」すること。「投票権」を平等にするためには、お金持ちや大企業から税金を取って再分配する必要がある。また、不況時は自動的に減税するとともに、国の支出を増やし、好況時は自動的に増税になって景気の過熱を抑える必要がある。累進性の高い所得税、儲けが出なかったら課税されない法人税は、景気の変動を抑えるすぐれた税制といえる。これに対して、「安定財源」、つまり景気が悪かろうが良かろうが一定の税収が確保できる消費税は、景気の変動を調節する機能を果たさず、不況時にあっても、国民生活への負担を強いるものである。国民経済全体という観点からすると、大企業・富裕層への増税、消費税の減税が合理的であると力説しました。

消費税のもつ基本的な問題点を学習し、消費税率引き上げ反対の運動をすすめていくことを確認できた「総会 & 記念講演」でした。

(事務局 加藤房子)



総会の様子(左上から)  
三戸部尚一代表世話人、竹田久税理士、大竹康子さん

記念講演の様子(上)  
講師 立命館大学経済学部松尾匡教授



## NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体 18、個人正会員 18、団体賛助会員 4、個人賛助会員 64(2022 年 6 月現在)

### 「2022 年度総会 & 記念講演」開催

6月16日(木)フォレスト仙台第2フォレストホールにおいて、「2022年度総会&記念講演」を開催しました。総会は正会員36人(本人出席19人・書面議決書17人)の参加で開催され、オンライン視聴も含め38人が傍聴しました

内館昭子理事長の開会挨拶の後、宮城県並びに仙台市からのご祝辞を紹介しました。

議案は、第1号議案:2021年度事業報告承認の件、第2号議案:2021年度決算報告承認の件、第3号議案:2022年度事業計画及び活動予算決定の件、第4号議案:役員選任の件について、渡辺淳子理事から一括して提案を行い、全議案とも満場一致で採択承認されました。

議案採択に引き続いて、総会



総会  
内館昭子理事長の挨拶①  
採決の様子②



決議が提案され、出席者全員の拍手で採択されました。(後掲)

総会に先立ち、総会記念講演として、市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰の小竹雅子さんを講師に『総介護社会～介護保険制度のこれまでとこれから』と題し、オンライン視聴も含め84人が参加しました。

「介護を社会全体で支えよう」と2000年に始まった介護保険は20年以上が経過しました。今後、要介護者の多い75歳以上が人口に占める割合が急増する時代を迎え、単身世帯の増加など家族の変化や、介護労働の現状を背景に、全世代をみすえ介護保険制度はどうあるべきか。電話相談(介護保険ホットライン)や、厚生労働省の審議会の傍聴し続けてきた中で、導入以来20年以上経過した介護保険の現在と将来像、また、コロナ禍で見えてきた制度の課題について、最新のデーターを基に現場からの声をすくい上げてきた市民の立場からご講演いただきました。

ご講演では、誰もが年を重ねていくなかで、介護保険は不可欠である。だが、度重なる制度改革により、制度は複雑化し、



記念講演 講師  
市民福祉情報オフィス・ハスカップ  
主宰 小竹雅子さん

政府が進めてきた給付削減、負担増が、「保険あって介護なし」の事態をますます深刻にしている。「利用者の自己決定・自己選択」の制度なのになぜ利用者や家族が苦しむのか。少子高齢化がすすむ中、誰もが身近になりつつある「介護のある暮らし」について市民がともに考え、制度の持続可能性を求め、もっと大きな声で情報発信していく必要があると強く訴えられました。

今後どのように介護に関わり支援していかなければならないのか考える貴重な機会となりました。

(事務局長 渡辺淳子)



## 適格消費者団体 認定 NPO 法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称: ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

### 「2022 年度通常総会 & 記念講演会」開催

6月25日(土)10時30分より仙台弁護士会館4階ホールにおいて、「2022年度通常総会」が正会員109人(本人出席19人、書面議決書63人、表決委任12人オンライン含む)の参加で開催されました。

司会の高橋大輔弁護士より成立が宣言され、その後、吉岡和弘理事長から挨拶がありました。

議長には、鈴木源一さん((公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会東北支部所属)が選出されました。

議案は、第1号議案:2021年度事業報告承認の件、第2号議



総会 採決の様子

案:2021年度決算報告承認の件、第3号議案:2022年度事業計画決定の件、第4号議案:2022年度活動予算決定の件、第5号議案:議案決議効力発生について小野寺友宏理事から一括の提案を行いました。

続いて、監査報告が車塚潤監事よりなされ、過半数で採択承認されました。

総会終了後、総会記念企画として、消費者支援ネット北海道(略称:ホクネット)の理事で事務局長の原琢磨弁護士を講師に、「特定適格消費者団体の認定をめざして～被害回復請求権を持つために私たちがすべきこと～」についてご講演をいただきました。ホクネットは、2021年10月1日、全国で4番目となる特定適格消費者団体として認定を受けました。特定適格消費者団体

記念講演  
講師 原琢磨弁護士



とは、事業者を受けた被害を回復できる消費者団体訴訟制度(被害回復)を利用し、消費者の代わりに特定適格消費者団体が行う制度です。

特定適格消費者団体の認定を受けるには、様々な基準が設けられています。原琢磨弁護士からは、具体的なイメージができる内容や、団体設立から適格認定を受けるまでのノウハウを学ぶことができました。また、「特定」が付くことによって何がどう違うのか。「特定」を付けてもらうために何をすべきかなどお話がありました。

### ㈱防災センター不当条項使用等差止訴訟判決 全面勝訴確定!

㈱防災センターを相手方とする差止請求訴訟について、相手方が上告していましたが、2022年6月3日(金)、最高裁判所より「上告棄却」「上告審として受理しない」旨の決定がなされ、適格消費者団体になって初めての差止訴訟をネットとうほくの全面勝訴で終了となりました。

2018年7月に同社に対し差止

請求訴訟を提訴し、約4年近く続いた裁判です。

今後も消費者に代わり、東北地方で唯一の適格消費者団体として、悪質な行為をする事業者に対し差止請求訴訟が提起できるよう活動していきます。

(事務局 金野倫子)



#### <裁判の概要>

㈱防災センターは、宮城県内において高齢者をターゲットに不当な消火器の訪問販売をし、10年間の長期契約を締結させる方法を繰り返していました。勧誘のため配布されたチラシも、当該リース契約が有利であり、消火器が優良であると、誤認を生じさせる内容でした。

今後も同じような事業を繰り返して、消費者被害を発生させないために、㈱防災センターとしての営業行為、契約方法に対し禁じるよう求めていました。

## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数:一般・学生 173、団体 6(2021 年 12 月現在)

### 宮城県との共催「子どもの権利に関するパネル展」

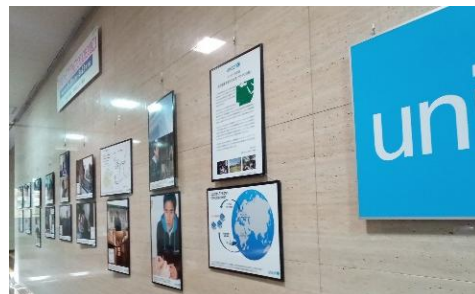
5月23日(月)から27日(金)まで、宮城県庁県民ロビーにて、「子どもの権利に関するパネル展」を開催しました。

今年は『長谷部誠大使がたどる「ワクチンの旅」』と『ポリオのない世界へ』の2つのパネルを展示しました。

『ワクチンの旅』は、長谷部選

手が訪問したエチオピアの予防接種事業の現場から「ワクチンの旅」を、命を守る支援に関わる人々の姿や子どもたちの笑顔とともに報告しています。

『ポリオのない世界へ』は、ポリオという病気とワクチンの基礎知識、世界の現状や根絶に



向けた取り組みなどを紹介しています。

### 「ユニセフ映画上映会&講演会」

6月4日(土)せんだいメディアアテック7階スタジオシアターにおいて、ユニセフ映画上映会&講演会「荒野に希望の灯をともし〜医師・中村哲 現地活動35年の軌跡〜」を開催し、165人が参加しました。



作品は、アフガニスタンとパキスタンで医療支援や用水路建設など、35年にわたり現地住民の生活を支え続けた中村哲医師の映画で、監督でありカメラマンでもある谷津賢二さんによる、中村哲医師の20年間の記録映像からなります。

上映後、谷津賢二さんによる講演が行われ、参加者は、中村哲医師の持つ強い信念とやわらかい人柄、また遺された文章から、国際情勢や自身の生き方について深く考える機会になりました。

会場では、ユニセフの資料の配布やユニセフ募金の声かけを行い、61,926円のあたたかいご支援をいただきました。また、ボランティア活動に3人の登録がありました。

上映会にたくさんのお申し込みがあり抽選となりましたが、コロナ禍による制限がなくなり多くの方が映画鑑賞を楽しみたいこと、ウクライナ情勢により国際理解に対する興味関心が高まっていることを実感しました。

(事務局 安達茂子)

#### <参加者の感想>

- \*「困っている人がいたら声をかけ助ける」「自然と人間の和解」が中村哲さんの活動の原点で、今起こっている戦争や子どもの虐待、人間による自然破壊、気候変動などの問題は、全てこの言葉に集約されていると思いました。
- \*水が世の中を変える、その一歩を人生かけて進めた中村さんに感動しました。
- \*武器を持って戦うのではなく、人に寄り添って行くことの大切さを学びました。
- \*「バケツ1杯の水の大切さ」が中村医師の活動の原点だったのは、ユニセフの理念と同じですね。
- \*谷津監督の「自然にも人格がある」「人と自然の和解」が心に響き、自分ができていることを行おうと考えることが出来ました。
- \*映像だけでなく、お話をお聞きして中村先生の奥深さを知りました。

講演する谷津賢二さん





## 公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク（MELON）の活動

みやぎ・環境とくらしネットワーク（MELON）は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境 NGO です。会員数：個人 414、法人 54、任意団体 8（2022 年 6 月現在）

### 年に 1 度の会員と市民のお祭り「MELON フェスタ」

MELON 会員・役員・事務局と市民の交流を目的に開催している恒例の MELON フェスタ。

前回はコロナ禍によりオンライン開催となりましたが、今年のフェスタは 6 月 4 日（土）にエル・パーク仙台 6F ギャラリーホールにて、対面式のイベント（オンライン配信併用：参加者 15 人）で開催しました。久しぶりの対面開催でしたが、会場に 80 人ほどの参加がありました。

始めに、MELON の石垣政裕理事が演出家をつとめる劇団仙台小劇場の環境劇「DANDAN おんだんか」の上演を行いました。地球温暖化をテーマにした環境劇で、内容はクマたちの恋愛物語ですが、気候変動や化石エネルギーの問題を取り上げ、ユーモアの中にも鋭いメッセージを盛り込んだ内容でした。

演劇という誰でもが気軽に见られる方法で伝えることで、地球環境問題を考えるきっかけづくりになったと思います。

次に、MELON が小・中学校への環境出前講話などで一緒に活動しお世話になっているケンタロ・オノさん（一般社団法人日本キリバス協会・代表理事）、MELON の長谷川公一理事長

（尚絅学院大学大学院特任教授）、今回のフェスタの実行委員長でもある石垣政裕理事の 3 人によるディスカッション「地球温暖化は止められるか？」を開催しました。

気候変動に関するこれまでの活動事例や、危機的な状況から行動変容が求められる現状についてなど、幅広い議論が行われ、来場者が自らの行動について見直す機会を提供できたのではないかと思います。

会場には、オノさんが出前授業を行ったクラスの先生が来場しており、マイクを向けると、授業後に給食の残飯が減ったことなど、子どもたちの行動に変化があったことをコメントしてくださいました。現場のこうした

声を聞けたのはとてもうれしいことです。

その他、会場では MELON の活動紹介や MELON を支える協同組合、部会・プロジェクトのブース出展、理事長賞の表彰式なども行われ、盛りだくさんの内容でした。

いつも MELON の活動を支えてくださるボランティアのみなさん、役員や事務局スタッフも含め会場にいた全員が、楽しい時間を共有した有意義な 1 日となりました。

（事務局長 小林幸司）



- ①劇団仙台小劇場による  
環境劇「DANDAN おんだんか」
- ②ディスカッション  
「地球温暖化は止められるか？」
- ③会場の様子

